

11. 酒・たばこ

<有害情報を得たときの状況>

補導等で子どもたちから「ある高校近くにある、顔認証のための自動販売機は、子どもでもたばこが買える。」と聞いた。

<有害だと感じた理由>

実際に、顔認証の自動販売機で買った、たばこを持っていた子ども（中学生）を補導したことや、中学校の先生からも、「あの自動販売機でたばこを買った生徒がいた。子どもたちの間で、あの自動販売機は子どもでも買えるという情報が流れている。」と聞いたため。

<取り組んだ事例>

顔認証の自動販売機を製作しているメーカーに改善を求めたが、「キチンと承認をうけているので、違法ではない。今後、精度を上げていく。」との返事。設置している業者に撤去を求めたが拒否された。

<行政や業界へ望むこと>

顔認証で絶対に子どもが買えない程に精度を上げるか、顔認証たばこ自動販売機の販売禁止、使用禁止を望む。

(香川県・女性・40代)

<有害情報を得たときの状況>

高校生が、JR駅のホームで喫煙していた。

<有害だと感じた理由>

未成年の喫煙。

<取り組んだ事例>

他のケースであるが、学校職員に話した。

<行政や業界へ望むこと>

未成年へのタバコ販売の禁止。買えない状況の確保。

(愛知県・男性・60代)

<有害情報を得たときの状況>

たばこ販売店へのタスポの導入が徹底せず、中には未成年者への店頭販売を公然と行っている店がある。

<有害だと感じた理由>

中学生、高校生の喫煙補導が「タスポ」導入後も減少していない。

<取り組んだ事例>

たばこ販売協同組合への申し入れ。

<行政や業界へ望むこと>

J Tの業界への指導強化。

(佐賀県・男性・60代)

<有害情報を得たときの状況>

対面販売の難しさ。見た目と実際の年齢が確認しづらいと、販売店より聞く。

<有害だと感じた理由>

中・高生がタバコを吸うと、なかなかやめられない。有害であるので販売店に徹底して欲しい。

<取り組んだ事例>

業界関係への指導。

<行政や業界へ望むこと>

徹底した指導を販売店にする。学校での指導。

(鹿児島県・女性・50代)

<有害情報を得たときの状況>

近所の中学生在が制服のまま、たばこを吸いながら歩いていた。

<有害だと感じた理由>

やはり見た目がよくないし、こんな年から有害なものは将来成長の妨げになると思う。

<取り組んだ事例>

幸い、顔見知りの生徒だったので注意し、捨てさせた。

<行政や業界へ望むこと>

机上の教育論だけでなく、現場になるべく足を運び、教師の現状をよく見て欲しい。

(広島県・女性・50代)

<有害情報を得たときの状況>

夏祭り、花火大会時に巡回した時に発見し、声かけ、注意指導した。

<有害だと感じた理由>

缶飲料（チューハイ等）を手軽に買い、又、タバコを買い、青少年が飲み吸っている。

<取り組んだ事例>

地域で定期的に巡回注意指導している。

<行政や業界へ望むこと>

手に入らないように配慮して欲しいこと。

(茨城県・女性・50代)

<有害情報を得たときの状況>

保護司として担当した複数の少年の家庭において、喫煙、飲酒が公然と行われていた。学校内（中学校）で教師、保護者、その他関係者が出入りしないであろう場所に煙草の吸いガラが時々あったと聞いた。

<有害だと感じた理由>

成人識別自販機の導入や未成年者への対面販売の取締り強化が叫ばれているが、家庭内での喫煙、飲酒は黙認されている。その理由として、親に隠れて喫煙し火事を出されるより親の前でなら許可する（飲酒も同様）。そのため親が購入し与える、という現状が

ある。

<取り組んだ事例>

親も共に指導していかななくては、その状況を改善できないので、往来訪の都度、青少年の有害環境について考えさせる。

<行政や業界へ望むこと>

青少年というより、とり巻く環境が改善されなければ、環境は良くなる。業界の認識が命の重みという観点から促えられるべきではないかと思います。

(北海道・女性・60代)

<有害情報を得たときの状況>

タスポがなくても煙草を売っているという情報があった。

<有害だと感じた理由>

高校生が煙草を簡単に買えると聞いたので。

<取り組んだ事例>

警察に連絡指導して頂いた。

<行政や業界へ望むこと>

タスポでの購入を徹底して頂きたい。

(熊本県・男性・60代)

<有害情報を得たときの状況>

未成年者の喫煙について、中学生や小学生で喫煙が行われている。そのうち、家庭で親が認めているケースもある。

<有害だと感じた理由>

家庭で認めていることが問題だと思う。家庭がしっかりしつけるべきだから。

<取り組んだ事例>

小学生まで喫煙は行われていることを周囲に話している。現実を知らせて、身近な問題であることを啓蒙している。

<行政や業界へ望むこと>

地域での啓発活動を望む。現状を訴え、どこが悪いかを知らしめる研修会なり啓発チラシの配布などの対策を望む。販売価格を高額にすることも効果があるのではないか。

(三重県・男性・60代)

<有害情報を得たときの状況>

正規従業員3名程度、高校生、大学生等アルバイト数名、席数50席以上で利用者は中学生、高校生をはじめ老人まで幅広いファミリーレストラン(サイゼリア)。度数の高いボトルワインを食事と共に提供しているお店がある。オーダーを受けるのは、アルバイト(未成年者?)。免許保持者も多数来店している。

<有害だと感じた理由>

酒類を提供してはダメとっているのではありません。法律で『飲酒運転の禁止』『未

成年者への酒類の販売の禁止』されているにもかかわらず、免許保持の確認、年齢の確認がなされていない。他のファミリーレストラン（居酒屋含む）では、酒類をオーダーすると必ず、上記2件については確認されているのに！

<取り組んだ事例>

地域外の防犯関係の人に相談しましたが、地域が管轄外ということで現在、取組めていません。

<行政や業界へ望むこと>

青少年育成アドバイザーとして、上期のような場合に直面したり、聞いたりした場合、動けるような方向はないのでしょうか？

(兵庫県・女性・50代)

<有害情報を得たときの状況>

たばこの自販機に顔をカメラで判断する種類があるが子どもが顔をゆがめたり、変化させると大人と間違っ作動し、たばこが買えると聞いた。業者への改良が必要である。

<有害だと感じた理由>

青少年のみならず、大人もたばこは吸わない方がよい。喫煙がやがて大麻へと、薬物へとつながってはいけないから。

<取り組んだ事例>

防犯パトロール隊員がコンビニ等に青少年にたばこを売らないように要請した。

<行政や業界へ望むこと>

たばこは対面販売にすべきであって、自販機での販売はやめた方がよい。

(山口県・男性・60代)

<有害情報を得たときの状況>

私の居住する地域は本土から約1km離れた周囲22kmの離島である。娯楽等の施設はなく子どもたちの溜まり場、居場所は殆どない。夏場のことであったが小学校校内のプールが何者かによって使用され苦言が上がっていた。回りは人家はなく人目につき難い場所でもあった。夜間特別街頭補導中、タバコを吸った顔見知りの高校生2人を発見。有害であることを説明し、注意し理解を求めた(本土から来る子どもたちも時々発見)。

<有害だと感じた理由>

未成年者は法律で禁止されている。

<取り組んだ事例>

夜間街頭補導巡回日の増加(週2回以上)。回りが暗いので街灯の設置。地区の自治会長にお願いし1ヶ所設置してもらおう。他の地区にも暗い道筋に1ヶ所、設置してもらおう。

<行政や業界へ望むこと>

行政、業界は無頓着で、すぐ対応してくれない。余りにもボランティアに頼り過ぎ。行政、業界で有害防止キャンペーンなど推進して欲しい。

(大分県・男性・70歳以上)

<有害情報を得たときの状況>

一年に一夜の祭りであるから少し位は酒を飲んだり、タバコを喫煙することも大人も黙認している。パトロールをして、注意しているが、服装がカラス族だったり、私服、変装していると年齢が分からない。特に女の子はサランを巻いたり、髪をセットし化粧していると殆ど分からない。年ごとに子ども達の言い訳も上手になり、だまされる場合が多くなってきた。深夜徘徊で補導されても、親との連絡がとれず、教師に身がらを引き取ってもらうという処置をとった。

<有害だと感じた理由>

アルコール中毒で救急車で搬送されたり、器物損害などで補導されている。また、酒の勢いからけんかをし、怪我などしている。

<取り組んだ事例>

祭関係者との話し合い。深夜までの運行の変更依頼。学校・子ども・祭関係者、PTA、地域ぐるみでの育成団体を立ち上げ、3回ほど話し合いの場をもった。警察にも同席していただいた。

<行政や業界へ望むこと>

子ども達が乱れる時間帯（PM 8：00～PM 11：00）は、酒やタバコが飲みやすい場所（たまり場）の巡回や、酒やタバコより魅力ある催事を市観光課にお願いし、検討していただいている。子どもを巻き込んで。

（青森県・女性・70歳以上）

<有害情報を得たときの状況>

ジュースの自販機の中にビールがある。酒の自販機は青少年にとって購入しやすい。店内から自販機が見えない。遠隔装置付自販機小屋がある。

<有害だと感じた理由>

他県から私服で来たときは、未成年者かどうか判断が難しい。

<取り組んだ事例>

青少年サポート協力優良認定店として点検活動の結果、県民会議認定証を配布している。よって青少年の健全育成に対する店舗業の理解が大いに深まっている。

<行政や業界へ望むこと>

有害サイト等へのアクセス防止及び制限機能（フィルタリング機能）利用の啓発。青少年の非行防止と健全育成の気運の高揚を図るため、関係機関のネットワークづくり。有害サイトから子どもを守る根気強い広報活動が急務であります。

（佐賀県・男性・70歳以上）

<有害情報を得たときの状況>

明らかに未成年者（学生）である人物が自動販売機（タスポ）でたばこを購入した。これを問い正すと、親がタスポを作って未成年者に渡したとの事。

<有害だと感じた理由>

未成年者（子ども）はたばこを購入出来ない。親が親なら子どもと呆れた。子どもの躰

と言うが親の方から躰が必要だ。

<取り組んだ事例>

夕方からの巡回（街頭補導）には、特に自動販売機等の設置されている所は、重点的に見て廻っている。

<行政や業界へ望むこと>

タスポに変わる確実な方法は無いかな。

（長崎県・男性・60代）

<有害情報を得たときの状況>

中学生男子生徒が登校前と下校時に喫煙しているが、だんだんエスカレートして授業中の休みの時間に、校内を出て喫煙している姿を見受けるが、常習化している様です。

<有害だと感じた理由>

最初の好奇心から常習化した今では次のステップ（薬物）に進行しないかと懸念すると同時に、青少年条例違反（販売含め）だと思います。

<取り組んだ事例>

現場を見た場合は、学校に通報しての指導要請と大人の声掛けを少年補導委員や、PTAに要請すると同時に警察にもその都度通報。

<行政や業界へ望むこと>

業界や行政との意見交換会の実施や、自主的な取組の強化。

（京都府・男性・60代）

<有害情報を得たときの状況>

保護観察中の男子中3から聞いた。10月北海道へ修学旅行中ホテルに於て、深夜車座になって飲酒した。それ以後市民まつりが市役所周囲で開催され（9：00～16：00）市役所玄関ロビーの片隅で中学生が飲酒し悪酔し3時間ばかりいたと聞く。本人は以前に厳重注意したから加わってなかったが、常習的に飲酒するのかわかれる。学校でどの様な指導をしているのか学校内ではと案じる。又全国的な傾向でしょう。

<有害だと感じた理由>

酒類の購入は難しいと思われる。量販店、コンビニ、酒店で万引しているのではと思われる。

<取り組んだ事例>

市教育委員会主催での「青少年問題協議会」の席上で「中学生の飲酒」ありと問題にした。

<行政や業界へ望むこと>

協議会には高校、中学、小校長会代表、警察生安課長等も同席なので今後のテーマで協議されるでしょう。

（兵庫県・男性・60代）

<有害情報を得たときの状況>

酒…自動販売機23:00時間が守られていない。たばこ…自動販売機認識…顔をしかめつつらにして皺を作れば購入できる。

<有害だと感じた理由>

青少年への酒、たばこ購入。

<取り組んだ事例>

直接的な効果が出ることはないが、地域活動の中での人の目、声かけのある街づくり活動。

<行政や業界へ望むこと>

青少年を人間として守ることを、心の無い機械・ハードまかせの社会そのものに問題がある。

(愛知県・女性・60代)

<有害情報を得たときの状況>

近くの中学生在が歩きながらタバコを吸っていた。知っている子どもだったので「未成年だからダメでしょ!」と注意はしたが、これが1対1であったので言えたが、大勢だと躊躇します。又、別の子で中学卒業しているけれど未成年だったので「〇君タバコはいけないでしょ!」と言うと、友人たちがいたため、反論されこわいおもいをしたことがある。

<有害だと感じた理由>

不登校の子どもで、家庭環境も悪く、親がタバコを注意しないこともあり、たぶん誰にも注意されることがなく、ある意味、愛情不足をタバコや非行、不登校でまぎらわせている面もあったのではと感じていた件である。

<取り組んだ事例>

公園などで会うと素直に話をするし、良い面もある。出来るだけ声をかけたり、家庭訪問をしたり、親と話しをするなど学校と家庭とのつなぎの役割りをしたり、関係機関に相談するように支援したことがある。

<行政や業界へ望むこと>

行政の窓口で専門家に相談したり、地域保健師、子ども家庭相談コーナーなどに取りつき、対応してもらっているが、やはり、一番は家庭の問題が大きい。保護者の教育が必要であるが、最も難しい。一番の課題について何の良いアイデアも浮かばないのが現状。

(福岡県・女性・50代)

<有害情報を得たときの状況>

未成年者の禁煙目的の為、自動販売機で買えなくなった時期の初め頃、ゲームセンターを婦警さんと巡回した折、四、五人の男子高校生の席に灰皿があり、どうみても喫煙していた様子だった。はじめは先客の者が吸っていたものだと言っていたが、いろいろ話していくうち本当のことを言いはじめた。持っているものは本人達に処分してもらい、どこで手に入れたかと質問するとコンビニとのこと。店先の自動販売機で買えなく店内

で買えるとは何か矛盾を感じた。

<有害だと感じた理由>

いつの時代も未成年者のタバコ問題が続いている。本人達はカッコイイ、大人になったつもりでいるのかも知れないが、身体の害になることを学校の保健教科で力を入れられないものかと思う。

<取り組んだ事例>

同行していた婦警さんが帰り道そのコンビニに寄り協力をお願いしていた。

<行政や業界へ望むこと>

このことに限らず青少年の為の規則が出来た時等は各関係機関に協力要請の依頼をした方が良いのではないかと思う。

(埼玉県・女性・70歳以上)

<有害情報を得たときの状況>

未成人者の飲酒喫煙の地域＝神社春まつりの夜参道及び近くの駐車場で4～5人グループ3組酒盛最中。特にビンビールが数本あり問題視する(昨年と同じことがある)。近くに酒店があり彼らは店舗からの購入と話していた。

<有害だと感じた理由>

彼らの発育階段(成長時)健康面、法律などで。

<取り組んだ事例>

少年達に対し健康上の問題点及び法律上のことについて指導(注意など)。警察職員に連絡し共に補導指導をする(理解させる)。

<行政や業界へ望むこと>

後日、警察署及び補導員連絡会連名で商工会議所(商店部分)及び酒販小売組合へ未成年者への酒類販売禁止徹底の申し入れをする。昨年と同じの申し入れを行なったが、徹底されなかった。

(石川県・男性・70歳以上)